

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970800809		
法人名	医療法人 正寿会		
事業所名	グループホームだんらん		
所在地	山梨県中央市乙黒247-1		
自己評価作成日	平成27年11月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成27年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、田園地帯が広がる静かな環境の中に建設されており、四季それぞれの風景が目を楽しませてくれます。その反面、介護老人保健施設に併設されているものの、周囲に人家が少なく、施設前の道路の往来も少ない状況で地域住民の方との交流がやや難しい状況にあります。2ヶ月に1回開催される運営推進会議には、地域の自治会長や民生委員の方に参加していただき、地域の皆さんにできるだけ事業所の存在を知ってもらうように心がけています。近年では、地域のお祭りや敬老会などの時にはご招待いただき、地域の皆さんと一緒に楽しませていただいています。今年度は地域の防災訓練に参加させていただき、地域の方々と一緒に防災について考えることができました。このような顔の見える関係を作りながら、地域住民の方に気軽に立ち寄りいただけるような事業所になれるように努力していきたいと思ひます。また職員は、ご利用者が家庭にいるのと同じようなゆったりした気持ちで、日常生活が送れるように、日々努力しています。今後地域の認知症の拠点になるべく、認知症カフェの開催も準備しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人の介護老人保健施設・通所リハビリテーション・居宅介護支援事業所と同じ敷地内にあるユニットの事業所である。居室内は、洗面所とトイレが設置してある。「思いやりを持ったケア」を基本に利用者一人ひとりの状態に合った支援を、管理者と職員が常に向上心を持って取り組んでいる。食事は、大きなテーブルを囲んで職員と利用者が会話しながら一緒に食べている。朝の起床も食事入浴も時間に追われず利用者中心の考えで必要な支援と見守りしている。田園地帯ではあるが地域の行事に参加したり、反対に訪問してもらったりと交流の機会を多く作って開所12年である。中央市からの「認知症カフェ」への取り組み等前向きな姿勢がうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームだんらん

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体としての理念「やすらぎ」と、事業所独自の基本方針を掲示してある。利用者の人格の尊重・健康管理・地域との交流などを基本方針とし、それに基づいた実践を行っている。	開所時の基本理念に加えて今年度の目標は、「家庭的な生活を笑顔で送って頂けるように尊重し、思いやりを持って介護する」と職員で決めた。月1回のカンファレンスや日々の支援の中で、目標に沿った支援が来ているか、また、住んでいた地域との関わりが持てる様な支援が来ているかを確認し実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の自治会長・民生委員を中心として、地域のお祭りや自治会の敬老会などの行事にも参加させていただいている。また、事業所の行事には、地域の方がボランティアで参加してくれたりして交流している。	自治会に加入している。祭りは夜間であるが、招待を受けて参加している。介護職員初任者研修や看護学生の実習生も受け入れている。散歩中は、畑で農作業をしている人と話をしたり、反対に散歩の人が気軽に事業所に立ち寄ってくれたり、野菜の差し入れがある等地域とは、日常的に交流の機会がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加させていただく中で、自然に認知症について理解していただけるように努めている。また、グループホームが認知症の人を対象としていることを地域の方たちに知ってもらうことで、何か認知症について困ったことがあった時に、相談してもらえようように努力している。今後認知症カフェ開催を予定している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの実際や評価への取り組み状況について報告し、市役所職員・自治会長・民生委員や家族と話し合い、出された意見をサービスの向上に活かしている。また、ご利用者も可能な限り会議に出席していただくことにより、普段の様子を皆さんに見ていただくようにしている。	2か月毎の14~15時に開催している。家族は全員に通知している。会議は、利用者の生活しているフロアで行う利用者も参加している。終了後は、手作りおやつでお茶会をしている。「利用者は高齢であるし、理解力も少ないので優しく見守りが大切」というアドバイスを受けて、基本的な事ではあるが実践している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中央市の担当者や地域包括支援センターと連絡を密にし、事業所の実情を伝えながら、協体制を整えている。市町村で開催される「中央市認知症を考える会」に参加し、地域の実情を伝えるとともに、認知症の専門施設として地域に貢献できるよう努力している。	市で開催している「認知症カフェ」を当事業所でも開催予定である。その為の打ち合わせや、年3~4回の「認知症を考える会」のメンバーとしての参加もある。また、空きベッドについて相談したり、反対に相談される等協力関係を築く様に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしないケア」については法人全体で取り組んでおり、職員も身体拘束の弊害については理解している。玄関の施錠に関しても、安全に配慮しながら、鍵をかけない方向で試行錯誤を行っている。また、スピーチロックに関して、職員同士で注意しあえる環境を作る努力をしている。	毎月第3木曜日に法人の研修会を実施している。今年も身体拘束廃止についての研修をしており職員は、何が拘束になるかは理解が来ている。玄関から外に出た利用者は、本人が納得するまで一緒に行動すようにしている。今は、行動を拘束している利用者はいない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者の虐待について、高齢者虐待防止関連法を含めて学習する機会を持つようし、どんな行為が虐待に当たるか知ることで、事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払っている。施設外で開催される研修等にも積極的に参加している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように努めている	権利擁護に関しては、その必要性を学ぶ機会を持ち、制度としてどのような支援が行えるか職員間でカンファレンスなども持ち、日常の支援に生かすようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、入居前に管理者が家族に対して個別に行い、事業所利用料金や利用上の注意点などを納得していただいている。また、解約や改定の際には、その都度納得のいくように説明し、不安や疑問点がないようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者については、ご自分の要望等を言葉で伝えられない方が多いため、日常生活の中で推測し、運営に活かせるようにしている。また、ご家族の要望に関しては、面会時に親しく話をしたり、運営推進会議等の機会に、気軽に提案できるような雰囲気作りにも努めている。	家族会はないが、全家族に運営推進会議の案内を出し電話の時に話を聞くようにしている。また、衣服の入れ替えを家族に依頼する等面会の機会を多くして遠慮なく意見を出してもらうようにしている。「風邪をひかない様に」という声に加湿器を増やしたり、タオルを湿らせて下げたり水を張る等の工夫をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回は職員のカンファレンスの機会を持ち、職員の意見や提案を聞く機会を持っている。また、そこで出された意見や提案は、できるだけ事業所の運営に反映させるようにしている。	月1回の職員会議や毎日の引き継ぎ時に意見が出る。排泄の自立に向けた取り組みや、利用者の居室内の衣服の置き場所等業務についての意見は、日常的に出て皆で検討している。高価な備品の購入については、伺い書を提出し、他の物についても自由に提案できる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者やこの職員の勤務状況や仕事ぶりを評価し、それを給与に反映することで、各自が向上心を持って働けるように、職場環境・条件の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は、法人全体の研修会や、山梨県グループホーム協会の主催する研修会等に参加する機会を確保している。さらに、一人ひとりのケアの実際と力量を把握するとともに、働きながらトレーニングを行い、スキルアップに努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山梨県グループホーム協会に加入しており、研修会や総会の際には他施設の状況等を情報収集している。今後はサービスの質の向上のためにも、他施設とのネットワークづくりや相互訪問の機会を持つなどの取り組みをしていきたい。又地域にあるグループホームとの交流会も今後計画している。「中央市認知症を考える会」へ参加し、同業の管理者との交流も実施する。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階では、本人・家族との面接や、自宅への訪問を通じて、不安なことや困っていること、要望等に耳を傾けながら、スムーズに事業所への移行ができるような関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた段階で、家族が困っていることや不安なこと、要望等に関して、傾聴することで信頼関係を構築し、安心できる関係を作れるように努力している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの入居を希望されて当事業所に相談来られるが、じっくりと話を聞くことでグループホームへの入居が適切かどうかを見極め、居宅介護支援事業所の介護支援専門員とも情報交換を行いながら、「その時」必要な支援を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共にする中で、季節の行事や家事を一緒に行いながら、人生の先輩としていろいろ学ばせていただいている。また、職員と利用者が、暮らしを共にしているという意識を持つことにより、良い関係が築けるように努力している。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆は、施設へ入居したからといって切れてしまうものではなく、ずっと大切にしていかなければならないものだと考えている。職員は、家族から自宅にいた時のご本人の様子を聞きながら、共に一人の方を支えているという意識を持つことが重要だと考える。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望を聞きながら、それまで暮らしていた地域の行事に参加してもらったり、近所の方に面会をお願いしたりして、関係が切れぬような支援を行っている。また、入居前の馴染みの場所で過ごせるように、外出の支援も行っている。	地域の敬老会や祭りに参加している。地域の人の訪問時には、次の面会につながる様な声かけをしている。事業所へも理・美容院は来るが、馴染みのところに行っている利用者もいる。毎週家族と共にドライブに出かけている利用者や入所時に家族から聞いて今までの関係が続けられる様な支援を心がけている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を把握し、良好なコミュニケーションがとれるように、職員が間に入って関わり、孤立しないように気をつけている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了は、病院への入院や他の福祉施設への入所がほとんどであるため、入院・入所時の情報提供等は必要に応じて行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活に関わっている介護職員が、一人ひとりの利用者の思いや希望・意向を生活の中から汲み取るようにしている。介護支援専門員は、その中から個々の希望や意向を把握し、ケアプランを作成している。	入所前の情報を全職員が共有し、ミーティング時・日常生活の中で思いの把握に努めている。「楽しく自由に過ごしたい」との思いを受けて、起きる・食事・入浴等の時間についても、可能な限り見守りながら支援している。困難な利用者の思いや意向については、普段の行動や表情から把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの相談を通じて、ご本人お生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等を聞き取るようにしている。また、これまでのサービス利用の経過については、家族だけでなく、居宅支援事業所の介護支援専門員から情報提供を受けながら、詳細に把握するように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事業所入居後は、一人ひとりに担当職員を決め、馴染みの関係を作るとともに、日常生活に濃厚に関わることで、心身状態や有する能力の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回はケアカンファレンスを開き、担当職員とご本人の様子について話し合うこと、面会時にご家族の意向を確認することで、現状に即したケアプランを作るようにしている。また、担当者から出されたアイデアや意見は尊重し、ご本人がより良く暮らすために活用している。	入居時は、情報を基に本人、家族の希望を入れて暫定プランを作成し、1ヶ月後に担当職員・ケアマネジャー・管理者が話し合って見直しをする。1か月毎に独自のアセスメントシートに担当職員が様子を記入している。その後、通常は6か月毎に、変化時は早急に見直して現状に合った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりに個別のカルテを用意し、日々の様子やケアの実践、気付きなどを記録している。また、情報を共有するために、情報を記載したノートを用意し、職員は出勤時必ずそれを見て、新たな情報の取得と、それまでの情報のチェックを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	原則的には家族対応である受診や買い物等について、その時の状況に応じて、事業所に対応するなどして、柔軟な支援を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人クラブの集まりやお祭り、地区の行事にはできるだけ参加させていただくようにしている。また、地域の小学校や中学校の福祉交流学習の際には、子供たちに事業所へきてもらい、利用者と交流する機会にしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的に家族に対応をお願いしている。入居前のかかりつけ医にそのままかかっている方が多い。受診の際には、普段のご本人の様子を家族に伝え、主治医との連携が図れるようにしている。また、特別に必要なと思われる場合は、書面で情報提供を行うか、職員が付添うなどしている。	利用者は、入居前のかかりつけ医になっているが、全てのかかりつけ医が往診可能ではない。重度になる等で往診が必要になった場合は、家族・本人と相談している。歯科医の往診はある。整形外科・精神科・眼科等への受診は、原則として家族対応である。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常生活を共にする中で、利用者の健康状態の変化に敏感になる。そのような情報や気づきを、併設の老健の看護師に伝え、適切な処置方法の指示や受診の指示を受けられるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、病院関係者に利用者の日常の様子を情報提供しながら、利用者が安心して治療を受けられるように協力している。また、退院の際には、事業所での生活にスムーズに移行できるように、退院カンファレンスを実施してもらうなどして、病院関係者との連携をとっている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的には重度化した場合や終末期のあり方については、そのことに直面した時に、ご本人・ご家族から強い要望があれば、できるだけ希望に沿った介護ができるような体制を整えている。今年度も2名本人・ご家族の強い希望があり、事業所において看取りを行っている。	看取りケアについては、職員の意見を聞いて実施している。重度化・看取りについての職員研修も実施しており、マニュアルも作成されている。訪問看護ステーションとの連携も出ている。家族・介護・ケアマネジャー・訪問看護・かかりつけ医と話し合いをして自然な形で看取りが出来る。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故については、いつ起こるか分からないため、全ての職員に対して、応急手当の方法や初期対応の訓練を行っている。夜勤時間帯に何かあった時には、老健の看護師が介護係長、管理者に連絡して指示を仰ぐように徹底している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害を予測し、避難訓練は随時行っている。法人全体で定期的に行っている避難訓練の他に、日常的に簡易な訓練を事業所独自で行っている。今年度は地域の防災訓練に参加し、地域の様子も確認している。今年度施設の避難訓練等に、地域の方の参加をお願いしている。災害時には地域との連携や協力体制をとれるように準備をしている。	夜間を想定した訓練や連絡網での非常招集訓練も出ているが、一人夜勤体制の訓練を実施していない。第1避難場所については家族には知らせてある。事業所はIH使用で消火器や火災報知機もとりつけてあり、職員は非常時の対応について周知している。	夜間を想定した訓練は、夜勤する職員一人に対応し、非常招集で順次集まる職員を増やしながら訓練する事で今までの訓練で気付かなかった事が見えてきます。また、利用者が、第1避難場所に安全に避難出来る様に、散歩時等の機会を利用して避難場所を覚えてもらう事と、運営推進会議時に地域の方々にも第1避難場所での見守りの協力依頼等の取り組みが出来る事を期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活を共にしていると、つい慣れてしまい、言葉遣いが粗雑になってしまったり、心無い声かけになってしまいがちであるということを職員全員が認識し、お互いに注意しながら介護のあたりにしている。	慣れ合いになっていないか？威圧感を持たせていないか？常に初心に戻る事を意識している。日常的には、可能な限り利用者が選択出来る機会を作って対応している。理念にもある思いやりを持った対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人が思いや希望を表しやすいような声かけを行ったり、自己決定ができるように、答えやすい質問の仕方を工夫するなどして支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に、希望を聞きながら支援していきたいと思っているが、ややもすると施設の決まりや都合を優先してしまうこともある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族にお好きだった洋服などを持ってきていただき、ご本人に着る服を選んでいただいたり、外出の機会には、おしゃれを出かけられるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように、調理の段階から参加してもらおうと思っている。野菜の皮むきなどの下ごしらえを職員と一緒にしたり、味見をしてもらったりしている。また、自立支援の観点から、食器の後片付けや食器拭きなどを手伝ってもらっている。	毎食の食事は、事業所内で作り大きな一つのテーブルで職員も一緒に食べている。食事での会話は必ず楽しい時間が出ている。法人内の管理栄養士の献立を参考にし、利用者の嗜好も聞いて献立表を作成している。回転ずしや道の駅等の外食の機会も作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取状況を記録することで、健康状態のチェックを行っている。水分補給にも気をつけており、好みの飲み物を提供することで、水分量の確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、個々の方の能力に応じて介助の仕方を工夫している。またご自分の歯が残っている方も多いため、できるだけ自分の歯が残るように、口腔ケアを徹底して行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、排泄の失敗がないように、時間でのトイレ誘導や排泄時の見守りに努めている。できるだけトイレでの排泄が継続できるような支援を行っている。	居室にトイレがあるので、トイレでの排泄を支援している。排泄チェック表を活用して、一人ひとりに合った排泄時間に誘導している。昼夜おむつを使用している利用者はいない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ほとんどの利用者が便秘で悩んでおり、下剤でコントロールしているのが現状である。普段の食事の中で、繊維質の多い食物の摂取や乳製品の摂取量を多くするなどの工夫を行っている。また、日常生活の中で運動する機会を多く持って、予防できるように取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴については、毎日に入れるような環境は整っているが、時間帯については、職員の勤務体制もあって、午後2時から4時までと決められている。	利用者一人ひとりは、週2~3回入浴している。菖蒲やゆず等を使い季節感を出すようにしている。浴室は明るく手すりもついて使いやすい。浴槽は個浴であるが、重度になった利用者も法人の器械浴槽は使わずに工夫して職員二人で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の状況や生活習慣に従って、休息をとってもらったり、夜間安心して眠れるように、寝具を整えたり、寝る前の習慣を継続したりしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、薬の目的や副作用についての説明書を個々のカルテに綴じており、職員がいつでも確認できるようにしている。服薬については、係長が個々に分配したものを、職員が指示通りに飲んでいただいている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、一人ひとりが笑顔で過ごせるように、それぞれの力を活かした役割や楽しみごとを見つけるように支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得ながら、できるだけ外出する機会を持ってもらえるようにするとともに、本人の希望に沿って外出できるような支援を行っている。月に1回は、事業所全員でドライブに出かけたり、外出する機会を持つように心がけている。	玄関や中庭が広く、植物も植えてありベンチも程よく置いてある。散歩をしたり、レクリエーションにお茶を飲んだりしている。行事には、声かけて家族に協力してもらっている。本人の希望で墓参りに行く利用者もいる。三珠の湯・とよみみの道の駅・双葉のサービスエリアなどのドライブによく出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的に使えるお金はお小遣いとして預かっているが、職員が管理しており、本人が自分で使えるようにはなっていない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族への電話はいつでもできるように支援している。手紙を出す機会はありませんが、年賀状などは毎年出すようにしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、できるだけ居心地が良いように配慮しており、季節感を取り入れるような飾りつけをするように工夫している。また、行事の際の写真や、日常生活場面の写真を壁に貼るなどして、生活感を持たせるように工夫している。	日当たりの良い居間は、段差をつけて8畳ほどの畳の部分があり、昼寝をしたり、日向ぼっこ等のくつろぎの場や食事用のテーブルが円形にあり広がっている。本箱の本や新聞も用意されている。壁には、その時々行事の写真がまとめて飾ってあり、落ち着いた共有空間になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはソファが置いてあり、一人になりたい時は他の利用者から離れて座れるような配慮をしている。また、気の合った利用者同士が話ができるような居場所の工夫をしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、できるだけ使い慣れたものを持ってきていただけるようお願いしている。家族の写真や人形なども持ってきてもらい、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	各居室は、トイレと洗面所が設置してある。ベッドとエアコン・カーテン以外は自由にタンスやテレビ・テーブル・寝具等が持ち込まれてその人らしい居室になっている。窓も広く外の景色も見える。居室入り口の小窓には、手作りのカーテンが掛けてあり、利用者のプライバシーへの配慮が伺える。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、安全な移動は確保されている。職員全員が利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を把握し、利用者の能力に応じて、安全で自立した生活が送れるように支援している。			